

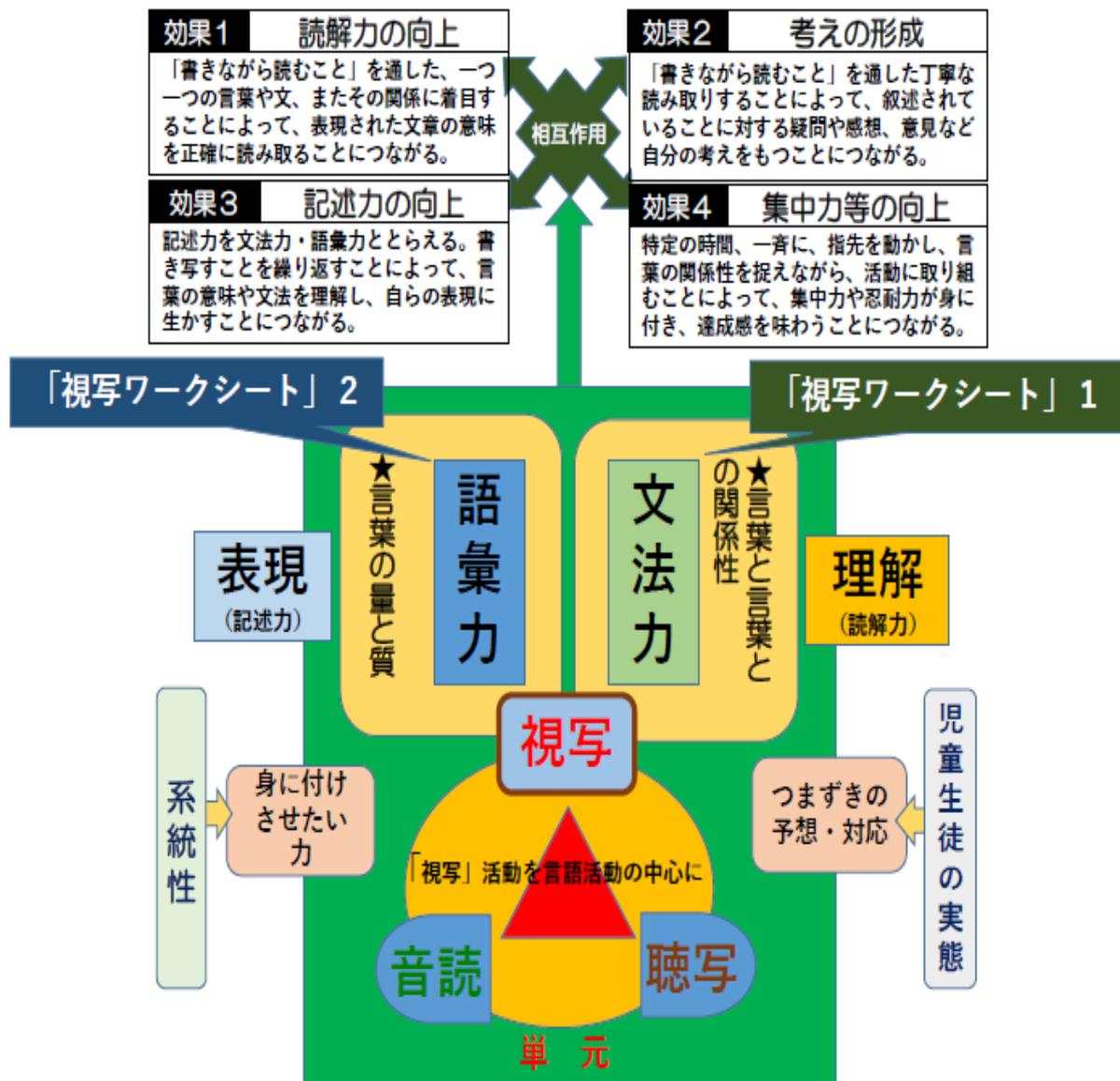
語彙力と文法力に着目した読解力の向上

◇視写とは 『言語活動（話す、聞く、書く、読む）の中心に「視写」の活動をおいた国語力向上の考え方』

◇視写の目的

- ・「読むこと」としての素材の理解・鑑賞をより確かで豊かなものにする。
- ・「書くこと」としての素材のもつ表現性を身に付ける。

◇視写の取組によって期待される効果



単元構想における発問計画

1 発問の定義

発問とは、ねらいを達成するため、教師が設定した学習課題を解決するための意図的・計画的な問いかけであり、児童生徒の思考に直接働きかけるものである。

したがって、発問の練り上げを行うことにより、児童生徒の思考のきっかけを与えたり、思考の広がりや深まりを促したりする効果がある。

2 発問の分類

分類	役割	性質	
主発問	発問の中でも、目標を達成するために特に重要な発問。 (児童生徒が学習課題を解決するために、焦点化して思考させたい内容に迫るもの。)	順序性	計画性
その他の発問	授業を組み立てる上での必要な発問。 (主発問を中心とした思考活動を組み立てる役割をもつ発問。)		
補助発問	児童生徒の思考を活性化させるために、児童生徒の反応に対して行う発問。(切り返しや新しい視点を与えるための発問。)	即時性	

3 発問の条件

(ア) 発問の意図が明確であること。

(イ) 読解技能を身に付けさせるものであること。

(ウ) 論理的な思考を促すものであること。

※ なぜこの発問を作ったのかという論拠は、学習指導要領の内容に基づかなければならない。

4 効果的な発問をするための留意点

- 発問によって実際に何を考えさせ、何を気付かせたいのかを教師が事前にしっかりもっておく。
- 思考のきっかけにする発問を決定する際には、教材分析を行い、教材に含まれる言葉や事象のもつ働きをしっかりと捉える。
- 日頃の児童生徒実態から教材内容や予定している発問等に対して児童生徒はまずどう反応するのか、その後の教師の働きかけによってどのように考え、どう変化していくのか、児童生徒の考える姿を具体的に思い描くことが大切である。
- 「わかる」とは「変わる」ということである。発問の効果を児童生徒の反応から評価する研究を行う必要がある。

※主な参考文献

○ 都城市教育研究所 平成 18 年度 「研究紀要」

○ 「発問をつくる」 松本陽一 教育出版

○ 「授業の心理学」 波多野完治 小学館

- 1 単元名 すぐれた表現に着目して読み、物語のみりょくをまとめよう
教材名 「大造じいさんとガン」 椋 鳩十 作(光村図書)
- 2 単元の目標
 - 文の構成や表現の工夫に気付き、優れた表現に関心をもつことができる。(知識・技能)
 - 登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、自分の考えをまとめることができる。(思考・判断・表現力等)
 - 人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。(学びに向かう人間性等)

3 単元について

本単元は学習指導要領における、C読むこと(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」カ「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」を重点事項としている。

なお、単元の系統は次の通りである。



第4学年「ごんぎつね」においては、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を、叙述を基に想像して読む学習をしてきている。また、第5学年「なまえつけてよ」では、叙述から人物同士の関係をとらえたり、「たずねびと」では、物語の全体像をとらえたりする学習を行ってきた。さらに本単元の学習は、第6学年「海の命」において、登場人物や登場人物相互の関係から生き方を学び、人物の生き方に話し合う学習へとつながり、中学1年の「少年の日の思い出」では、場面の展開に沿って登場人物の心情を捉え、登場人物の生き方や感じ方について自分の考えを広げる学習へと発展していく。

本教材は、ガンの頭領「残雪」と狩人「大造じいさん」との間に繰り広げられる戦いの物語である。物語の中には、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かす大造じいさんの人間味あふれる姿が、緊迫した雰囲気の中で生き生きと描かれている。場面の展開や物語の山場の部分などに、登場人物の心情や行動を写す細かい描写が見られ、特に情景描写の巧みさにより、児童を物語の世界へ引き込むものとなっている。心情や行動描写、情景描写が、作品の魅力を伝え合うことに適した教材である。

4 児童の実態

本学級の児童は、男子14名、女子19名、計33名で構成されている。児童は1学期に、「なまえつけてよ」、2学期「たずねびと」の文学的文章の授業を通して、人物同士の関わりを読んだり、物語の全体から心情を読み取ったりする学習を行ってきた。学習中の様子から、叙述を根拠に登場人物の心情を想像したり、人物同士の関係を読み取ったりすることが少しずつできるようになってきた。しかし、読み取る力に個人差が見られる。

また、本学級の児童にアンケートをとったところ、52%の児童が文学的文章を読むことを苦手としていることが分かった。その理由として、場面の様子をとらえたり、人物の行動から心情をとらえたりすることに対して難しく感じており、加えて文章を読むことに対して抵抗を感じている児童もいることが分かった。

5 「分かる」「できる」喜びを実感させるための手立て

〈「学習意欲」を継続するための発問構成の工夫〉

- 児童が学習課題を解決し、焦点化して思考させることができるような主発問を構成していく。
- 「何が変わったのか」「どのように変わったのか」「どうして変わったのか」を基に、主発問を構成するようにする。

〈「参加意識」を高める視写活動の工夫〉

- 叙述に着目させるため、書きながら同時に文章を読む活動である視写活動を行うようにする。
- 視写をする際は、微音読しながら取り組ませ、文章の読み間違いや読み落としがないよう取り組ませるようにする。
- 視写が苦手な児童のために、教科書やノートを置く位置を指示したり、個別指導の際は、文節ごとに区切って音読してあげたりするなどの支援をする。

〈「読解力」向上のための、発問や視写活動の工夫〉

- 視写をさせる叙述は本時の学習のめあての解決につながる場所を意図的に教師が選び、視写をさせるようにする。
- 大造じいさんの心情の変化を、行動描写や情景描写などを基に捉えることができるよう発問する。

充実感をもつ		言葉の力を高める					必要感をもつ	段階	
第8時	第7時	第6時(本時)	第5時	第4時	第3時	第2時	第1時	時間	
	<p>物語の魅力について自分の考えをメモにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心情を表す表現 ・ 動きに関する表現 ・ 情景を描いた表現 <p>物語の魅力を書いたポップづくりを行う。</p>	<p>山場で大造じいさんの心情が変化した理由を読み取る。</p> <p>主発問 大造じいさんは、なぜ残雪を打たなかったのだろう。</p> <p>着目させる叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。 ・ 大造じいさんが手を伸ばしても・・・努力しているようでありました。 ・ 大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。 <p>残雪の命をかけて仲間を守ろうとする姿や、頭領としての威厳を持ち続けようとする姿に強く心を打たれたから。</p>	<p>残雪(ガン) 何としてでも打ちたいという気持ちが徐々に強まっている。</p> <p>着目させる叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うまくいくぞ」 ・ 青くすんだ空を見上げながらにっこりしました。 ・ 「さあ、戦闘開始だ。」 ・ 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。 ・ 大造じいさんのむねは、わくわくしてきました。 ・ 冷え冷えするじゅうしんをぎゅつとにぎりしめました。 ・ 「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」 	<p>おとり作戦の時の大造じいさんの気持ちは、どのように変わったのだろうか。</p> <p>主発問</p> <p>着目させる叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うまくいくぞ」 ・ 青くすんだ空を見上げながらにっこりしました。 ・ 「さあ、戦闘開始だ。」 ・ 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。 ・ 大造じいさんのむねは、わくわくしてきました。 ・ 冷え冷えするじゅうしんをぎゅつとにぎりしめました。 ・ 「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」 <p>うまくいくと思っていたが、あと少しのところで作戦が失敗し、悔しい気持ちに変わった。</p>	<p>ばらまき作戦の時の大造じいさんの気持ちは、どのように変わったのだろうか。</p> <p>主発問</p> <p>着目させる叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会心のえみをもらいました。 ・ あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。 ・ りょうじゅうをぐつとにぎりしめた：びりびりするほど引きしまるのでした。 ・ 大造じいさんは広いぬま地の向こうを…、ううんとうなってしまいました。 	<p>たかが鳥と甘く思っていたが、作戦に失敗し、たいしたちえをもっていると認めた。</p> <p>主発問</p> <p>着目させる叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「なんだかうまく行きそうな気がしてなりませんでした。 ・ 「しめたぞ。」 ・ 「ほほう。」 ・ 思わず子どものように声をあげて喜びました。 ・ たかが鳥のことだ。 ・ 秋の日が美しく輝いていました ・ 「ううむ。」 ・ 思わず感嘆の声をもらしてしまいました。 ・ たいした知恵をもっているものだなあと・・・感じたのでありました。 	<p>大造じいさんは、初め残雪のことをいまいましく思っていたが、最後はガンの英雄と認めるまで変わった</p> <p>主発問 物語の中で大きく変化したものはなんだろう。</p> <p>着目させる叙述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつごろからか、この残雪が来るようになってから、一羽のガンも手に入れることができなくなっていたので、いまいましく思っていました。 ・ 「おうい、がんの英雄よ。おまえみたい・・・また堂々と戦おうじゃあないか。」 ・ 晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。 ・ いつまでもいつまでも見守っていました。 	<p>全文を通読して感想や考えをもち、単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元扉を読み、題名からどのような物語かを想像する。 ○ 「大造じいさんとガン」を読んで初発の感想を書く。 ○ 本の魅力についてポップづくりを行うことを知り、課題をもつ。 	<p>学習活動と発問</p>
	<p>物語の魅力を見付けることができる。</p> <p>分類させるようにする。</p>	<p>山場での大造じいさんの心情が変化した理由を読み取ることができる。</p>	<p>おとり作戦のときの大造じいさんの心情をとらえることができる。</p>	<p>大造じいさんが、「ううん」とうなった理由をとらえることができる。</p>	<p>「ううむ。」と感嘆の声を上げた理由を読み取ることができる。</p>	<p>物語の初めと終わりで大造じいさんの気持ちは大きく変化したことを読み取ることができる。</p>	<p>題名や扉絵に着目させ、おじいさんの表情から物語の展開を想像させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「深く心に残ったところ」「疑問に思ったところ」を初発の感想に書かせるようにする。 ○ 全文を通読し、初発の感想を書くことができる。 	<p>指導上の留意点</p>	
	<p>物語の魅力を見付けることができる。</p> <p>分類させるようにする。</p>	<p>山場での大造じいさんの心情が変化した理由を読み取ることができる。</p>	<p>おとり作戦のときの大造じいさんの心情をとらえることができる。</p>	<p>大造じいさんが、「ううん」とうなった理由をとらえることができる。</p>	<p>「ううむ。」と感嘆の声を上げた理由を読み取ることができる。</p>	<p>物語の初めと終わりで大造じいさんの気持ちは大きく変化したことを読み取ることができる。</p>	<p>題名や扉絵に着目させ、おじいさんの表情から物語の展開を想像させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「深く心に残ったところ」「疑問に思ったところ」を初発の感想に書かせるようにする。 ○ 全文を通読し、初発の感想を書くことができる。 	<p>指導上の留意点</p>	
	<p>物語の魅力を見付けることができる。</p> <p>分類させるようにする。</p>	<p>山場での大造じいさんの心情が変化した理由を読み取ることができる。</p>	<p>おとり作戦のときの大造じいさんの心情をとらえることができる。</p>	<p>大造じいさんが、「ううん」とうなった理由をとらえることができる。</p>	<p>「ううむ。」と感嘆の声を上げた理由を読み取ることができる。</p>	<p>物語の初めと終わりで大造じいさんの気持ちは大きく変化したことを読み取ることができる。</p>	<p>題名や扉絵に着目させ、おじいさんの表情から物語の展開を想像させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「深く心に残ったところ」「疑問に思ったところ」を初発の感想に書かせるようにする。 ○ 全文を通読し、初発の感想を書くことができる。 	<p>指導上の留意点</p>	

7 本時の目標

(1) 目標

- 山場での大造じいさんの心情が変化した理由を読み取ることができる。

(2) 指導過程

段階	学習活動及び内容	教師のかかわり
導入	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確かめる めあて 大造じいさんは、なぜ残雪を打たなかったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「大造じいさんの残雪に対する始めと最後の気持ち」と「大造じいさんの気持ちの変容」を捉えさせるようにする。 ○ 学習計画から本時のめあてを立てさせるようにする。
展開	<p>3 P233L1～P233L14 を視写する。</p> <p>4 大造じいさんの残雪に対する行動が変わる場面を読み取る。 個人→ペア→全体 基本発問 大造じいさんの残雪に対する行動が変わった場面があります。どこでしょう。 大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか再びじゅうをおろしてしまいました。 基本発問 大造じいさんの行動を変えさせたものは何でしょう。 残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。</p> <p>5 大造じいさんが強く心を打たれた理由を読み取る。 個人→ペア→全体 基本発問 大造じいさんは何に強く心を打たれたのだろう。 ・頭領らしい堂々たる態度 ・頭領としてのいげんをきずつけまいと努力する姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 残雪の仲間を救う行動により、大造じいさんの気持ちが変わったことを読み取らせるために視写をさせるようにする。 ○ 大造じいさんの気持ちが変わった「場面」を確認したうえで、視写をさせるようにする。 ○ 大造じいさんの残雪に対する行動が変わった場面にサイドラインを引かせるようにする。 ○ 子どもたちが自信をもって全体で話し合えるよう、ペアで確認させるようにする。 ○ 大造じいさんの行動を変えさせた叙述にサイドラインを引かせるようにする。 ○ 残雪が仲間を助ける姿が、大造じいさんの行動を変えさせたことを確認する。 ○ 「強く心を打たれた」という言葉の意味を確認させるようにする。 ○ 大造じいさんの心を強く打った、残雪の行動にサイドラインを引かせるようにする。 ○ 気付けない児童には、残雪の行動に着目させて読み取らせるようにする。
終末	<p>6 本時のまとめをする。 まとめ 残雪の命をかけて仲間を守ろうとする姿や、頭領としての威厳を持ち続けようとする姿に強く心を打たれたから。</p> <p>7 心に残った文章を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大造じいさんが残雪を打たなかった理由を、本時で出てきた言葉を使いながら自分の言葉でまとめをさせるようにする。 ○ 単元の最後のポップ作りにつながるよう、本時で心に残った文章を書かせるようにする。

8 目指す児童の姿

残雪の仲間を守ろうとする姿、頭領としての威厳をきずつけまいとする姿に態度に強く心を打たれたので、残雪をガンの英雄と認める気持ちに変わった。